

< 実践事例 豊島区立富士見台小学校 >

1. 取組・活動名

「ころりんピック」

2. 取組・活動のねらい

- マットを使った運動遊びの体験を通して、オリンピック・パラリンピックへの、興味・関心とスポーツ志向を高める。
- フェアプレーやチームワークを通して、「友情」「勇気」の精神を育む。

3. 教育課程上の教科名・時数

「体育、道徳、特別活動・6時間」

4. 実施上の工夫

- ・児童にとっての「ころりんピック」を、スポーツ選手にとってのオリンピック・パラリンピックと同様に捉え、スポーツは、選手の努力のほか、大会等を運営する方々の協力、応援があって成り立つことを、道徳を通して教科横断的に学ばせる。
- ・フェアプレーの精神をもって応援したり、実際に自分でやってみたりすることで、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心とスポーツ志向を高める。
- ・単元の最後に、これまでの学びの発表の場である「ころりんピック」を設定し、児童の意欲を高め、できるようになった技を自覚させるとともに、達成感や自尊心の向上につなげる。
- ・ころりんピックでは、学級活動で考えた「応援コール」や「いいぞコール」を自主的に使わせることで、「友情」「勇気」「フェアプレー」の精神を高めさせる。

5. 本取組・活動の内容



「ころりんピック」

- ・第1・2時は、体育館フロアに様々なマット遊びができる場所を設定し、ゆりかごや前転、側転などを体験できるようにした。
- ・第3時は、発表会に向けた練習を行った。
- ・第4時は、前時の技の練習後、ころりんピックを行った。
- ・年間を通したフェアプレーの表彰
(例) 一生懸命練習することができた児童に「熱心に練習できたで賞」メダルを授与

※他の「スポーツ志向」を醸成する取組



※他の「スポーツ志向」を醸成する取組 「安全体づくり体操」

- ・体幹を鍛え、転びにくい体をつくるために、理学療法士の方々と「安全体づくり体操」を開発した。全学年、体育の授業を始める際には、「安全体づくり体操」を必ず行っている。
- ・Y-T バランスや天井ジャンプ、回転ジャンプ、ねこバランス、腕立て伏せなど、本校のオリジナルソングに合わせて体操する。
- ・この体操を地域にも広め、高齢者の方にもけがをしない健康な体をつくっていただくよう、高齢者向けの体操を作成し地域に広めている。



「運動会エンブレム」

- ・運動会の前に、運動会のエンブレムをつくる体験を通して、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めた。
- ・完成した作品は、運動会練習中から当日まで児童玄関に展示した。これにより、全校児童の運動会に向けての気持ちが高まった。
- ・運動会当日には、保護者や地域の方にも作品を見ていただき、児童の運動会にかける思いを理解してもらうことができた。

6. 成果

- ・道徳で思いやりを考え、学級活動でコールを作るなど、合科的な指導を実施することにより、ねらいをより効果的に達成することができた。
- ・運動が苦手な児童もいる中で全ての児童が回転技を習得し、スポーツ志向の資質を高め、教科目標も達成することができた。
- ・フェアプレーカード（ふりかえりカード）の取組で、児童の思いやりが育った。
- ・「ころりんピック」大会の設定により、児童が前向きで意欲的に取り組むことにつながった。
- ・低学年の児童は形を示す中で育ち、形から入ることで中身が充実していく。本取組で応援をしたり応援をされたりする中で、互いを認めたり認められたりして思いやりの心が育まれた。